鷹取山自然観察会会報

2014.6.8 No.4

鷹取山周辺の自然保護

一山の草木は誰のもの一

鷹取山自然観察会は昨年4月に観察会、 生き物調査、自然保護活動を目的として発 足いたしました。地元に残された鷹取山周 辺の自然を後世に残して行ってほしいと 願っています。

樹木の伐採

鷹取山は追浜駅から徒歩30分でアクセスできる手頃なハイキングコースであるとともに地元の人の散歩コースでもあります。ここは古くからロッククライミングのゲレンデとして利用されていて、休日などは垂直な岩場をザイルを使って登る登山者の姿を多く見かけます。最近ではマウンテンバイクやトレイルランなど利用者は多様です。多くの利用者がいる一方で、鷹取山周辺の自然を未来に残していけるか、自然保護は大きな課題であると思います。



写真1 伐採されたキズタの株

写真 1 は伐採されたキズタの株を示しています。昨年桜岩といわれる岩場の大きな

株のキヅタが岩が崩れるとの理由から伐採されました。また、尾根伝いには従来住宅と山の間に多少の緩衝地帯があったのですが、近年山裾まで住宅開発され、住民の方の日当たりが悪いなどの理由から斜面の樹木の伐採が行われています。ハイキングコースでは低木のカマツカ、ウツギ、アオキなども根元から刈りこまれているのがよく見られます。一旦切られると枯れてしまいます。

刈り取る方はよかれと思いやっていると思うのですが、一度伐採されたものは元に戻るために何十年もかかります。過度な伐採はできるだけやめてほしいと願っています。

山の草花は誰のもの

この周辺では貴重な樹木や草花の絶滅が目立ってきています。 草本類では、キンラン、ギンラン、エビネ、マヤラン、タシロランなどのラン科植物がありますが、これらは絶滅危惧種でこの周辺ではめったに見られない状況で一部の場所でひっそりと生息しています。30年以前はエビネ、キンラン、ギンランなどこのあたりではごく普通に見られたそうです。

夏から秋に花をつけるヤマユリ、タムラソウ、ヤブカンゾウ、ワレモコウ、キクアザミなどは、その大半が目に触れると茎から切り取られるのが実状です。山の花は自然のものです。自然に根付き、何世代も子

孫を残してきた植物です。花は生殖器官ですから実をつけて種をばら撒き子孫を残していきます。花を切り取ることは子孫を残せないことにもなります。山野草愛好家がラン科植物などを採取することもあると聞いています。キンランなどラン科の植物はほとんどが菌類と共生していることが多く家に持ち帰ってもほとんどが根付きません。



写真2 エビネの花

ハイキングに来られた方が美しい草花を 見つけて、「記念に頂戴する」といった採 取なども見かけられます。鷹取山の自然を 残していくため一人ひとりがモラルとマ ナーをもって、自然保護を心がけたいもの です。

また、岩場にはシダ類などが多くついていますが、常緑のミツデウラボシなどは毎年のようにきれいに刈り取られてしまいます。貴重な種は保全していきたいと思い残念でなりません。

園芸品種の持ち込み

山頂周辺では、山に園芸品種を持ち込む こともよく見られます。ほとんどは枯れて しまいますが、アガパンサス、ランタナ、 フリージアなど持ち込まれた園芸種が不自 然に毎年花をつけています。キバナオドリ コソウも何箇所かで繁殖しています。園芸 種が山の環境に適応していくことがありま す。

最近は生物の多様性が叫ばれていますが、外来種や園芸種の持ち込みによって在来の植物に影響を与え、植生が変化することにもなります。園芸種は家庭の庭や公園で楽しみたいものです。

自然保護の取り組み

鷹取山は様々な人たちにより多様に利用されている地域です。自然を保全するのは 困難な課題ですが、子や孫の世代まで自然 を残していきたいと皆願っていると思います。今できることは何かをみんなで考えた いと思います。

鷹取山の自然保護を実践するためには下記の「横須賀市緑の基本計画」に書かれているように、市民・NPO・地権者・行政が一体となって取り組むことだと思います。

横須賀市の緑の保全の取り組み

横須賀市では平成9年「横須賀市緑の基本計 画」を策定して平成22年3月に計画の見直しを 行っています。この計画では「横須賀市みどり の基本計画は、都市緑地法第4 条に基づき、市 が策定する「緑地の保全及び緑化の推進に関す る基本計画」のことで、「みどりの保全」「緑 化の推進」「都市公園の整備」に関する施策を 総合的に実施するため、その目標と実現のため の施策などを明らかにし、効果的、効率的に都 市のみどりを保全・創出していく計画です。 画の実効性を高めるためには、市民・NPO・事 業者・行政等のそれぞれの役割を明確にし、そ れぞれが役割分担しながらみどりの保全・創出 に取り組むことが重要です。 必要に応じて各主 体による連携を図って、協働によるみどりへの 取組みを行っていきます。

(本多久男)

巣箱作り

巣箱作をする3月1日の土曜日は、時折 小雨の降る寒い薄曇りで最悪な日でした。 9時15分に集まり準備をして、9時30 分の集合時間を待ちましたが、残念ながら 児童の参加は一人もありませんでした。仕 方なく集まった本多、中村、小池、市川で 巣箱作りを始めました。

計画を始めたのは9月からでした。当初は追浜コミニティセンターで親子を対象にした計画でしたが、私の考えで鷹取小児童が作ることに変更しました。11月に学校へ行き計画を話し了承を得、2月3日にプリントの配布をお願いしました。しかし。児童の応募がないのでもう一度お願いに行きましたが、残念ながら一人の応募もありませんでした。

巣箱準備

材木の購入は、追浜の材木店にお願いしました。幅15cm長さ4m厚さ2,5cmの板にかんなをかけて2cm厚にし、この板1枚2000円で4枚購入。これを下記の図のように切断して、全体で12個分の巣箱の材料を取ることができました。切断料2000円で、計1万円。

組み立ての部品として、釘、蝶板、留め金のそれぞれはさびを考えてステンレスのものを購入。12個分とシュロ縄で合計4千円の費用がかかりました。

入り口として、ドリルの刃の径が3cmなので3cmの穴を開けました。入る鳥の種類により入り口の大きさがちがい、3cmだとシジュウカラとスズメが使うことが考えられます。

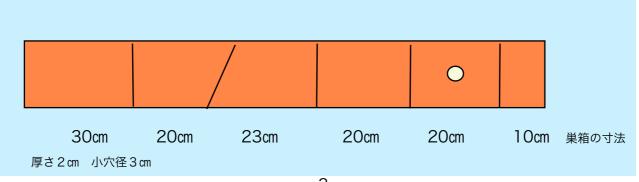
巣箱作り

9時30分から、4人で作りました。板が厚いので割れる心配がない代わりに、ドリルで小穴が開けてあったのですが釘が打ちにくかったです。組み立てるのに1時間弱かかりました。今年は10個を取り付け、1個は学校に寄贈、1個は来年用に保存としました。



巣箱掛け

10時30分から巣箱を掛けに鷹取山に登りました。計画ではグループ分けをして取り付ける予定でしたが、4人で1個ずつかけていきました。前もって、かける木を



組み立て前の材料の板





完成した巣箱 (総計11個)







選んでしるしをつけてあったので、それに掛けたのですが、なかなか掛けるのが難しく、大人2,3人は必要です。また、道から離れると急斜面になるので、いよいよ掛けるのが難しくなりました。道から離れても楽に掛けられるところは、なかなかないものです。11時30分までに10個を掛け終わりました。

その後の観察

予想はしていましたが、登山道の近くに 掛けた巣箱には入った様子が見られません でした。5月初めまでに、道から離れたと ころに掛けた巣箱のうち、2個にシジュウ カラが入っているところを本多会長が確認 しました。

しばらくは継続観察をして、できれば巣箱に出入りしている鳥の様子を写真に撮りたいと思ってはいますが。その後、巣立った後に、巣箱の利用を調べてから、木からはずして、清掃と消毒をして、また来年も使います。

来年、また作る計画ですが、どうするか はこれから考えて決めます。(担当 市川)



総会の開催について

鷹取山自然観察会では4月16日の自然観察会終了後に総会を開催しました。当自然観察会は昨年4月に発足して初めての総会でもあり、昨年度の会計報告と今年度の事業計画について説明しました。特に今年度は横須賀市市民協働推進補助金に申請して予算の一部を頂くことになっております。



26年の予定

1. 自然観察会

鷹取山自然観察会では原則として第二日曜日に観察会を行います。雨天の場合は水曜日に順延、更に金曜日に順延します。自然観察会では鷹取山周辺の植物、動物などを一緒に観察します。会員以外の初めての方もお気軽にどうぞ参加ください。ご連絡はメール又は電話でお願いします。

6月 8日(日) 追浜駅9時30分集合 7月11日(金) 追浜駅9時30分集合 8月10日(日) 京急田浦駅9時30集合 9月14日(日) 追浜駅9時30分集合 10月12日(日) 神武寺駅9時30分集合 11月 9日(日) 追浜駅9時30分集合 12月14日(日) 追浜駅9時30分集合

2: 生き物調査

植物相調査は原則として第4金曜日に 行います。雨天の場合は翌週の日曜日に 順延、更に水曜日に順延します。また、 チョウ類調査は原則として第2金曜日に 行います。雨天の場合は翌週の日曜日に 順延、更に水曜日に順延します。

☆ 植物相調査

日付	調査方法
4月30日	環境省自然環境局及び日本自
5月27日	然保護協会における「モニタ
6月27日	リングサイト1000里地調査マ ニュアル」植物相調査に準じ
7月25日	ーユアル」値初相調査に挙じ て行います。
8月22日	維管束植物について調査しま
9月26日	す。
10月24日	
11月28日	
12月26日	

☆ チョウ類調査

日付	調査方法
6月13日	 環境省自然環境局及び日本自然
7月18日	保護協会における「モニタリング
8月8日	サイト1000里地調査マニュア
9月12日	ル」チョウ類調査に準じて行い
10月10日	ます。

3. 樹木板の設置

6日中旬	樹木の名前を書いたプレートを
	鷹取山周辺に掛けます。公園内
	は市役所に許可を得て行いま
	a .

4. 巣箱作りと設置

11月中旬

親子で巣箱づくりイベントを行 い鷹取山周辺に設置します。

これらの行事は全て自由参加です。 興味ある調査・活動に是非ご参加くだ さい。

5. 会報の発行及びホームページによる情報発信

会報を年3、4回程度発行し、横須賀市の自然活動団体等へ送付してネットワークの構築を図ります。また、鷹取山の自然やイベント情報をホームページにより定期的に発信します。

会報発行時期:6月、9月、12月、3月

シダ観察会の報告

平成26年6月2日(月曜) 神武寺駅 集合 午前9時半~12時半 参加者 15人

鷹取山自然観察会では初めてシダの観察会を企画して、「三浦半島のシダ」を書かれた専門家である大前悦宏先生を講師にお呼びして開催しました。昔か

ら神武寺はシダの宝庫として知られている場所でもあり、シダの種類も多く珍しいものもあるということです。

一つ一つのシダについて、特徴と同定 の仕方について丁寧な解説をしていただ きました。例えばヤマヤブソテツはお 片の数が少なく、耳片がある。他のヤ ブソテツに比較して柔らかく、色はお 緑。シケシダはシケシダの名のとおり 湿った場所にあるそうです。葉柄にはよ があるが、葉身の溝と繋がってとは溝 があるが、葉身の溝と繋がって型を している。オクマワラビは胞子が上側 の羽片に付いていて、根には黒い鱗片が ついている。最下羽片が八の字型です。

次から次へとシダを見ていると最後には、飽和状態で違いが分からなくなってきたのが実情ですが、シダに親しむ方法としては、身近なシダについてよく観察すること、葉の表裏、葉柄、葉身、根茎のようすを写真やスケッチすること、春夏秋冬と観察を続けるとシダが分かってくるそうです。

大前先生の優しいお話と詳しい知識 に敬服いたしました。私たち観察会も シダを除外せずにシダを楽しんでいきた いと感じました。(HPもみて下さい)

会員の募集 (ホームページ "鷹取山の花と樹" を見て下さい) 鷹取山自然観察会の会員を募集します。観察会に参加した時に申込みできます。 また、申込書は下記のホームページからもダウンロードできます。 入会金は観察会に参加した時にお願いします。

HP:鷹取山の花と樹 http://homepage3.nifty.com/takatoriyama/

連絡先:世話人代表: 本多久男 e-mail:fwjg2350@mb.infoweb.ne.jp

tel: 090-4177-0164

会報編集: 中村紀雄 e-mail: nakanori@cosmos.ocn.ne.jp